

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900277		
法人名	医療法人 社団福祉会		
事業所名	グループホーム高須		
所在地	愛知県西尾市一色町赤羽北荒子18番地		
自己評価作成日	平成24年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2012%20022_kani=true&JigvosyoCd=2375900277-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、利用者一人ひとりがもつ能力を活かしながら役割を持って暮らしていけるよう支援しています。
職員は認知症を理解し、その方のそのまますを受け入れ、尊重し支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道を挟んだ運営法人の母体医療機関からの往診と訪問看護を週1回受けられる事で、利用者の健康管理を行っており、状態変化時には、24時間電話での相談が可能であり、必要に応じて母体医療機関の看護師が駆け付け、救急搬送や受診の判断をする体制が整っている。また、職員は、ホームの研修で、緊急時の対応方法やAEDの使用方法を学んでおり、技術や知識を身に付けている。さらに、ホームでは、医療行為が必要な方は入居の継続ができないが、法人医療施設への受入れや、状態に合わせて法人の関連施設である老健へ移る事も可能であり、家族には、入居時に説明し同意を得ており、安心して任せる事ができる。また、医療面だけでなく、法人の夏祭りには、地域へも参加を呼びかけており、利用者が住民と交流する取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念をつくり共有しています。	理念は、職員全員で作ったもので、事務所等、職員の目に付く場所に掲示している。職員は、研修の場で理念を再確認しており、理念に基づいたケアの実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で買い物をして商店の方々や馴染みの方との交流をしています。 地域の小学校や保育園の行事や運動会への参加をしています。	利用者は、近隣の保育園や小学校の行事に参加し、園児、児童とのふれあい、関連施設の老健で開催される夏祭りに出掛け、地域住民との交流の機会になっている。また、中学生の職場体験や看護学生の実習受け入れもやっている。	今後、地域の祭り等の行事に積極的に参加し、利用者が地域の一員として活躍できる機会を増やしていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けての活動は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者様から頂いたご意見を改善、向上に向けて活かせる様取り組んでいる。	会議では、ホームの状況報告や民生委員からの地域情報を得る機会になっている。また、会議の中で、家族から、ホームの設備面についての意見があり、ホームのキッチンを新しく改装している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも話し合った課題等について情報交換しています。	管理者は、ホーム運営上、不明な点があれば、市担当者に相談し解決している。また、運営推進会議終了後に、市担当者とは話す時間をつくり、他ホームの研修等の取り組みについて助言をもらい、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の実践と共に、スタッフ間での勉強会を実施し実践に繋げています。	職員は、身体拘束についての内部研修や外部での研修に参加しており、身体拘束ゼロのホームを目指している。また、ホームの玄関は施錠されておらず、職員の見守りで安全を確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間での勉強会を行っています。 気持ちにゆとりを持ち接しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は行っているが実践に繋が事例がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに伴うリスク、グループホームでできる支援等について説明しています。疑問点についても理解が得られるまでお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や利用者からの要望・苦情については改善に向けて日々の業務に反映させています。また運営推進会議でも取り上げています。	管理者、職員は、家族の来設時には、必ず声を掛けて、意見を聞くように心掛けている。また、家族も参加する誕生会の終了後に、ゆっくり話しを聞く時間をつくっている。また、年6回のホーム便りで、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り職員の意見や提案を吸い上げ管理者を通して代表者へ繋ぎ反映できるようにしています。	職員は、毎日の申し送りや毎月の会議等を通じて、業務やケア内容について、積極的に意見を出している。また、年2回の管理者による個人面談で職員の意見を汲み取り、運営法人に伝えると共に改善に繋げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を実施し、評価しています。個々の努力や実績の数値化は難しく、細かな部分までの把握は難しいと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修への積極的な参加を勧めて頂けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会等へ参加し意見交換を行っているが参加はほぼ管理者のみとなっているのが実情である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期での本人の不安はかなり大きいと思います。その不安が少しでも軽減できるような対応と環境づくりが出来るよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望に対し、しっかり耳を傾けて伺いながら、出来る事、出来ない事はしっかりと説明し安心してサービスを利用して頂ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	大きく環境が変わることによる不安が少しでも軽減できるようこれまでの生活の中で継続できることを見つけ支援していけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同での生活の中で調理等、家事を共にしながらあなた達に助けていただいているという気持ちで接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居する事により家族との関係が遠ざかる事の無いよう本人を支える上で必要な部分の協力をお願いしたりする中でご家族の抱える悩み等にも相談にのれるように努め本人、家族、ホームの絆を深めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年通っていた商店や美容院等を利用することで馴染みのある方々との関係が途切れないように努めています。	ホームでは、友人が訪ねてきたり、法事に参加する為に送迎や自宅での排泄介助等、職員が馴染みの場での生活が継続できるように支援している。また、自宅に帰りたいたいの強い希望のある方に対して、家族の理解を得て、定期的に自宅へ泊りに出掛けている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同生活の場として互いの力を合わせ助け合い、互いが大きな資源として関係が築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々面会しています。 他施設へ転居されても、ご家族から今後の方向性について相談を受けた事例もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの実勢の為にも本人の言葉や行動、表情から思いを汲取り、その思いを尊重できるよう支援しています。	職員は、センター方式も利用して、日々の利用者の様子や表情から思いを汲み取る事に努めている。さらに、毎日の利用者の言動を細かくカルテに記録し、申し送りで報告し情報を共有する事で、一人ひとりのニーズに応えたサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣が大きく変わることが無いよう言葉や食事、生活リズム等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する出来る事、出来ない事の把握に努め自立した生活が出来るよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、職員と話し合い作成しているが、家族からの意見は少なくあまり取り入れられてない現状である。	介護計画は、基本3か月毎に作成しているが、利用者の状態変化時には迅速に見直し作成し、計画作成担当者が家族に説明している。また、職員から日々のコミュニケーションを通しての気付きや意見を集め、毎月のカンファレンスでモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は日々の記録や申し送りの中で情報を共有しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方が一般家庭で暮らす上で生まれるニーズと同様に捉え柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普通っていた商店等へご本人の道案内で希望する品物を購入したりと本人の自立を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは受診以外でも相談できる体制である。	運営法人の医療機関による往診と訪問看護が週1回あり、日常的に利用者の健康状態把握に努めている。さらに、受診時には、病院と連携し、待ち時間無しで受診することが可能であり、利用者の負担軽減になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しているので連絡、報告、相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医療機関への入院が殆どであり細かい連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る範囲は説明した上で重度化した場合は同法人の医療機関や施設で対応している。	ホームでは、看取りをしない方針であり、入居時、家族に説明し理解を得ている。利用者の状態に合わせて関連施設の老健への変更や、医療行為が必要な場合は、母体の医療機関へ生活の場を移す対応を行っており、段階に応じて、家族とも話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冊子、マニュアル等は備えているが定期的な訓練の実施は出来ておらず、実践力が身に付いているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に一緒に訓練を実施しています。協力体制は法人職員のみとなっています。	ホームでの、訓練は年2回、利用者と一緒に火災や地震を想定して行われている。また、非常食等は、国道を挟んで隣接する法人医療機関内に必要な量が用意されているが、職員に周知されていないのが現状である。	非常食等がホームから離れた場所にあることで、緊急時には迅速な対応が必要であるため、ホーム職員が非常食等の保管場所を把握して、災害時に対応できる体制を整える事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で不適切な声掛けが無い、利用者の人格を尊重した対応が出来ているかを日々確認し合いながら意識するようにしています。	職員は、接遇についての研修を受けており、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアを心掛けています。また、管理者は、職員の声かけについて、気が付いたことがあった際には、日頃から現場で指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日々の関わりの中から言葉以外の表現や行動を注意深く感じながら自己決定が成せる様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であっても集団行動ではないと理解し、個々の思いに添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己決定や欲しい物の買い物支援、本人のことを良く知っている美容院へ出向く等しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が主体となって準備や片づけが出来るよう心掛けています。献立からの参加まで出来ていません。	ホームでは、食事の準備、片付け等、利用者にはできる事には、職員支援の下、参加している。食材の買い物も新聞広告を見て、職員とスーパーへ買い物に出掛けている。また、月に1度、回転すし等、外食を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量、好みのおやつ等個別に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と実施しています。 洗面所の使用も一斉ではなく一人ひとり対応できるよう状況に応じて実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時的な誘導は行わず、排泄チェックでリズムを確認したり、本人からのサインでトイレでの排泄を実施しています。	職員は、チェック表の活用や利用者の様子やサインを見逃さないよう心掛け、トイレへ案内している。また、入居時に紙オムツを使用していた方が、職員の支援により、布の下着で生活が送れるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便への対応しています。 飲食物に寒天等を取り入れたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施日は決まっているが希望があれば入浴していただいている。	ホームでは、基本1日おきの入浴であり、利用者の状態に合わせて入浴支援を行っており、一人ひとり、ゆっくりと時間をかけて入浴してもらえるよう努めている。また、拒否される方には、上手に声をかけ、入浴してもらえるよう促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで休息して頂いている時も他から受けるストレスに配慮し安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服薬確認をしています。 安定剤や睡眠剤等の使用については経過を観察し、経過によっては看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが好きな事を楽しめるよう支援し、共同生活の中でも自ら役割が持てるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年忌や墓参り等へご家族の協力も得ながら出掛けられる様支援しています。	利用者は、天候が良ければ散歩や個別の買い物に出掛けたり、併設するデイサービスの行事イベントに参加することもあり、外に出る機会をつくっている。また、イチゴ狩り等、季節を感じる旅行に車で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりお小遣いをお預かりし、買い物の際に財布を渡しています。ご自分で所持している場合は家族の合意を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話が掛けられるような支援と手紙のやり取り等にも協力しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごしていただけるよう職員が慌しく動く事が無いよう配慮し、雑音にも注意しています。照明がやや暗すぎるように感じます。	共用空間には、行事や外出時の写真が掲示されており、フロアの壁面には、季節の飾り付けが行われている。また、日中、フロアで、ゆっくり過ごせるように大きなソファが配置されており、利用者は、自分の落ち着く場所で、のんびり過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶の時間や寛ぎの時間などその方が気分良く過ごせるよう居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の物を本人が使い易い配置ができるよう支援しています。	居室への家具等の持ち込みは自由になっており、家具の配置は、利用者とも相談し、安全を配慮した上で決定している。また、趣味の編み物の道具、家族の写真、誕生日の寄せ書き等が置かれ、その人らしい生活空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけたり、食堂の席が分かるようにイスに座布団をつけたりして自分で確認できるよう工夫しています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム高須

目標達成計画

作成日: 平成 24年 12月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(2)	民生委員を通して近隣の保育園や小学校との交流機会はあるが、地域住民、町内会等との交流が少ない。	地域の祭りや町内会活動等に参加し、利用者が地域の一員として活躍できる機会を増やしていく。	民生委員を通して、町内会行事を把握し、ホームとして参加できる機会を増やしていく。	12ヶ月
2	(13)	災害時の非常食について、ホームでの備えと、法人としての備蓄があるが、法人備蓄品の保管場所が、職員に周知されていない。	ホームでの年2回の訓練時に、法人備蓄品の保管場所を確認し、周知を図る。	目標と同じ。 (追)訓練時に備蓄品の賞味期限を確認し訓練として利用者と食す等に対応していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月